レジメン登録フォーマット

申請年月日	2021/4/27	使用開始日			
登録診療科	血液内科	申請医師	松永一美	化学療法委員会承認年月	R 3 年 5 月
レジメン名	ポライビー＋R-ベンダムスチン(2～6コース目)				
疾患名	非ホジキンリンパ腫	適応の備考			
適応分類	進行・再発				
1コース日数	21 日間	総コース数	5 コース	催吐性リスク	day1.2:中等度
抗がん剤投与量・投与日	リツキシマブ375mg/㎡ day1、ポライビー1.8mg/kg day1、ベンダムスチン(トレアキシン)90mg/㎡ day1-2				

治療スケジュール ・ 投与日程（投与日は●） (day)

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量		投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1	主ルート	生食50mL	1	本 / body	5 分	●																				
	点滴静注			/																						
				/																						
	プライミング用																									
2	主ルート	生食500mL	0.675	本 / ㎡		●																				
	点滴静注	リツキシマブ注	375	mg / ㎡	下記	●																				
				/																						
	10倍に希釈する																									
3	主ルート	生食100mL	1	本 / body	30 分	●																				
	点滴静注	水溶性プレドニン注50mg	2	A / body		●																				
				/																						
4	主ルート	5%糖液100mL	0.6	本 / body		●																				
	点滴静注	ポライビー点滴静注用	1.8	mg / kg	90 分	●																				
		注射用水100mL	1	本 / body		●																				
				/																						
	1Vにつき140mgは7.2mL、30mgは1.8mLの注射用水で溶解																									
	◆希釈液量体重規定あり◆ 25kg～104kgの間は輸液量の調整不要																									
	投与速度は1回目90分、2回目以降30分可。																									
5	主ルート	ｸﾞﾗﾆｾﾄﾛﾝ注ﾊﾞｯｸﾞ1mg/50mL	1	本 / body	30 分	●	●																			
	点滴静注			/																						
				/																						
6	主ルート	生食50mL	1	本 / body		●	●																			
	点滴静注	トレアキシン注	90	mg / ㎡	10 分	●	●																			
				/																						
	閉鎖式システム使用																									
	【減量基準】 前コースの投与量 90mg/㎡ → 70mg/㎡で再開																									
	70mg/㎡ → 50mg/㎡で再開																									
	50mg/㎡ → 中止を検討																									
	なお、減量後は再増量しないこと。																									
7	主ルート	生食50mL	1	本 / body	5 分	●	●																			
	点滴静注			/																						
				/																						
	経口投与	ポララミン錠2mg	1-3	錠 / body		●																				
		ジクロフェナクNa錠25mg	1	錠 / body		●																				
				/																						
	day1:リツキシマブ投与の30分前																									

【投与上の注意】
・中等度催吐性用のデキサートは不要。
トレアキシン:希釈は生食のみ。
リツキシマブ:前投薬としてポララミン(2)1～3錠、ジクロフェナクNa(25)1錠を内服する。
リツキシマブ:初回はECGモニターをつける。
リツキシマブ:投与速度 初回は50mL/hで開始し、30分毎に50mL/hずつ上げ、最大400mL/hまで。
リツキシマブ:投与速度 2回目以降は、医師の指示により、投与法①、②から選択
投与法①:初回投与時に発現した副作用 が軽微な場合、100mL/hで開始 、30分毎に100mL/hずつ上げ、最大400mL/hまで。
投与法②:臨床的に重篤な心疾患がなく、初回投与時に発現した副作用が軽微、かつ投与前の末梢血リンパ球数が5,000/μL未満の場合、
最初の30分で投与量の20%を投与、残り60分で投与量の80%を投与(90分間で投与)。
ポライビー:前投薬としてポララミン(2)1～3錠、ジクロフェナクNa(25)1錠を内服する。
ポライビー:0．2または0．22μmのインラインフィルターを使用して投与する。
ポライビー:投与速度は1回目90分、2回目以降は30分まで短縮可。
ポライビー:Grade1又は2のinfusion reaction発現時はGrade1又はベースラインに回復するまで休薬又は投与速度を下げる。症状回復時には元の投与速度で再開可。
ポライビー:Grade3のinfusion reaction発現時はGrade1又はベースラインに回復するまで休薬する。症状回復時には休薬前の投与速度の1/2の投与速度で再開可。
再開後infusion reactionが認められない場合には、投与速度を30分ごとに50mg/hずつ上げることができる。
ポライビー:希釈後の濃度が0.72mg/mLから2.7mg/mLになるように希釈する。 体重25kg未満の場合は30mLに、104kg以上の場合100mLに希釈する。
ポライビー:調製後は激しい振動を加えないこと(抗体タンパクが凝集するおそれがあるため)。
ポライビー:投与後は30分以上経過観察すること。
ポライビー:調製後の安定性は、生食で4時間、5%糖液で8時間。